

文脈を踏まえた解釈と表現についての実践的研究

—短歌連作の読解と創作を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（国語）

関 有紗

本研究では、文脈を踏まえた解釈と表現について深く考えることのできる授業を目指し、実践・考察を行った。先行研究を踏まえた新たな試みとして短歌連作を活用し、連作の読解・創作を通して、連作の文脈における言葉の解釈について考える授業実践を行った。一次実践で連作読解、夏休みに短歌創作、二次実践で連作創作を行い、読解で得た学びを創作に生かすことで、言語感覚をより確かなものにできるようにした。実践の結果、一次実践では同じ歌でも連作の中に置くことで意味が変わることや、同じ言葉でも文脈によって異なる意味になることなどを学ぶことができた。二次実践では、創作の具体的な手法を学び、名作短歌につけ足す形の連作創作としたことで、夏休み課題の作品と比較すると表現が豊かになり、言葉を厳選する姿が見られた。実践・考察を通して、短歌連作を活用することで、生徒はより深く言葉について考えることができ、解釈と表現の両面において効果があることが明らかになった。